

R

ROUND TABLE DISCUSSION

抗不整脈薬： 先輩から後輩へのメッセージ

司会

山下 武志

公益財団法人
心臓血管研究所所長

出席者

岩崎 雄樹

日本医科大学
大学院医学研究科
循環器内科学分野講師

八木 直治

公益財団法人心臓血管
研究所附属病院
循環器内科副院長

志賀 剛

東京慈恵会医科大学
臨床薬理学教授/
東京女子医科大学
循環器内科学客員教授

有田 卓人

公益財団法人心臓血管
研究所附属病院
循環器内科副院長
(発言順)

現在、ほとんどの不整脈がカテーテルアブレーションにより根治をめざすことができるようになっている。そのため抗不整脈薬を使用する場面は限られてきており、若手の医師が実地経験を積みながら抗不整脈薬について学ぶ機会は少ない。しかし今なお、抗不整脈薬は必要不可欠な薬剤であることに変わりはない。そこで本座談会では、『抗不整脈薬：先輩から後輩へのメッセージ』と題して、抗不整脈薬の“experience based medicine”が築かれた時代に研鑽を積んできたベテラン医師から若手医師に抗不整脈薬についてレクチャーしていただき、現在のアブレーション時代、超高齢社会における抗不整脈薬の使い方についてディスカッションしていただいた。

山下 抗不整脈薬は作用機序によりⅠ～Ⅳ群に分類されますが、本日はⅠ群・Ⅲ群に焦点を絞り、若手医師に知っておいてほしいことをベテランの志賀先生、岩崎先生にレクチャーしていただいたうえで若手の有田先生、八木先生からの質問にお答えいただき、皆さんでアブレーション時代、超高齢社会における抗不整脈薬の使い方や意義などについてディスカッションしていきたいと思います。

Ⅰ群薬

1 抗不整脈薬の歴史とⅠ群薬の特徴・使い方

山下 それでははじめに、岩崎先生からⅠ群抗不整脈薬について若手医師に知っておいてほしいことをレクチャーしていただきます。

岩崎 抗不整脈薬の歴史は、1970年代初頭に興奮や伝導を強力に抑制する薬剤としてⅠ群薬(Naチャンネル遮断